

カルパー[®]粉粒剤 16

■種類名：過酸化カルシウム粉粒剤

■有効成分：過酸化カルシウム----- 16.0%

■登録番号：第17423号(保土谷化学登録)

■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)

■登録初年：1989.10.26

■性状：類白色微粒及び粗粉45~150 μ m

■有効年限：5年

■包装：3kg \times 8袋

【特長】

- 本剤を種籾に粉衣して播種すると、土壤中で徐々に酸素を放出し、発芽中の種子に酸素を供給することにより直播水稲の発芽率を向上させ、苗立歩合の安定化に有効である。

【適用内容】(2017年10月末日現在)

作物名	使用目的	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	過酸化カルシウムを含む農薬の総使用回数
直播水稲	発芽率の向上 苗立歩合の安定	は種前 浸種後	乾燥種籾重量の 等倍~2倍量	1回	湿粉衣 (地上は種用、 空中散播及び 無人ヘリコプターに よる散播用)	全域	1回

【効果・薬害等の注意】

- 本剤は水分を吸収すると固化して使用できなくなるので、開封後は使い残しのないようにする。
- 粉衣に際しては下記の事項に注意する。
 - ◆ 粉衣には浸種した種籾を用い、十分に水切りした後に粉衣する。
 - ◆ 種籾の浸漬では、ゆっくり吸水催芽させ鳩胸程度に止める。芽を切った種籾は粉衣の際に芽を欠損するおそれがあるので使用しない。
 - ◆ 種籾を消毒する場合は、本剤の粉衣前に種子消毒剤の所定濃度液に浸漬する。
 - ◆ 粉衣処理は専用の回転式粉衣機又は自動式粉衣機を使用すると効率的である。
 - ◆ 回転式粉衣処理は攪拌が容易で、薬剤及び水の投与が簡単な容器で行う。
種籾を入れ攪拌しながら本剤の所定量の一部を少量投入する。本剤が種籾に付着し、余分な本剤が飛びはじめたら噴霧器等で水の噴霧を開始する。水は連続で噴霧しながら、本剤を少量ずつ投入する。粉衣状態を見ながら投入をくりかえす。本剤所定量の少量を残した時点で水の噴霧を止める。水の噴霧を止めた後、この少量残した本剤を投入し3分間攪拌を続ける。
 - ◆ 粉衣処理の際浸漬した種籾の水切りが不十分であったり、一時に水を多量に噴霧すると本剤を投入した時に薬剤や種籾が団子状になり、均一な粉衣ができなくなるので注意する。
 - ◆ 本剤を粉衣した種籾を30分程度ゴザ等にひろげ、陰干しをして薬剤が固まってから網袋にいれる。当日播種できない場合は、風通しがよく雨水がかからない場所にスノコ等の上にむれないように保存する。また、乾燥しすぎると粉衣の破損が大きくなるので早めに播種する。
 - ◆ 使用後の容器などはそのまま放置すると、均一な粉衣ができなくなるので充分清掃しておく。
- 本剤を粉衣した種籾を湛水直播水稲栽培で播種する場合は下記の点に注意する。
 - ◆ 播種する時は、植代かき後の水の濁っている時、または植代かき後土壌表面が柔らかいうちに、粉衣した種籾が土中に埋没するように播種する。
 - ◆ 本剤を乾燥種籾重量の等倍から2倍量未満で使用する場合には落水出芽法を併用し、発芽苗立を促進するために播種直後から出芽始めまでの間落水し、田を乾かす。北海道を除く全域において本剤を乾燥種籾重量の2倍量で使用する場合には必ずしも落水出芽法と併用する必要はない。
 - ◆ 本剤を2倍量より少ない量で粉衣処理した場合、特に播種機を利用の播種では想定した播種量より繰出し量が多くなるので播種開始前に播種量を調整する。
 - ◆ 空中播種および無人ヘリコプターによる散播で使用する場合、各散播機種種の基準に従う。
- 本剤を北海道において乾田直播早期湛水栽培で使用する場合には、北海道の水稲乾田播種早期湛水栽培暫定基準に従う。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には、直ちに水洗し、眼科医の手当てを受ける。
- ❖ 使用の際は保護眼鏡、不浸透性手袋などを着用し、使用後は洗眼する。
- ❖ 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
- ❖ 移送取扱いは、ていねいに行う。
- ❖ 保管：密封し、直射日光をさけ、食品や酸類と隔離して、冷涼・乾燥した所。吸湿すると固結するので、特に湿気をさける。